家庭用録画・再生機器産業における 日本企業の技術革新と競争優位

岩本敏裕

近年、企業経営において、技術革新が競争優位の構築に対して果たす役割の重要性がますます強調されるようになり、技術革新をどのように遂行し、いかにして競争優位を構築するかは重要な課題となっている。

本稿は、日本企業の技術革新がどのように遂行され、競争優位を構築したのかを家庭用録画・再生機器を表象として取り上げ、分析した。

本稿の目的は、民生用電子機器産業において世界市場を席巻した個別製品である家庭用VTRを取り上げ、技術革新に焦点を当て、プロセスに着目することによって、日本企業の競争優位の内容を明らかにすることである。また、DVD機において苦戦を強いられるようになった要因を明らかにすることである。

本稿の構成は以下の通りである。序章では、家庭用VTRを取り上げる意義について述べ、先行研究に関する議論を整理し、技術革新の視点から捉えることの必要性を指摘した。第1章では、企業経営における技術革新と経営戦略に関する議論を整理し、技術革新と戦略を捉えるフレームワークを提示した。第2章では、VTR産業の黎明期である1950年代から1976年に至る期間の欧米企業と日本企業の研究開発活動について考察した。第3章では、1977-1987年における日本企業の漸進的イノベーションを考察した。第4章では、1988年から21世紀初頭までの日本企業の製品・製造の改良と製品開発について考察した。第5章では、家庭用録画・再生機器におけるデジタル機器の開発について考察した。第6章では、21世紀初頭におけるDVD機の技術革新について考察した。終章では、日本企業の技術革新と競争優位について整理し、本稿のまとめとした。技術革新に成功することは、企業の競争優位の構築に対して大きな役割を果たすが、重要なことは市場や競合他社との関連において遂行することである。そのためにも戦略が必要であり、技術革新を推進する戦略には組織能力が重視され、日本企業間においてみられた横並びの激しい競争は技術革新を加速させた。